

山に親しみ山に想う(21)

— 韓国徳裕山国立公園 紀行 —

〈文・絵〉 岡本

2003年10月26日(土)と27日(日)の一泊二日で徳裕山国立公園内の徳裕山(最高峰の標高1614mの香積峰)に登った(注1)。韓国内第4の高峰、自然の景勝で有名であるだけでなく、韓国では数少ないスキーリゾートでもある。この10月末の山行では、紅葉を満喫、堪能できた。

26日朝、ソウル江南高速バスターミナル8時50分発のバス(一般券7000ウオン、特券は1万ウオン以上)に乗り、東大邱高速バスターミナルに10時50分に到着、ターミナル隣の東部市外バスターミナルで11時40分発の終点九千洞行きバス(6400ウオン)に乗り換える。午後1時半に終点の九千洞バス停に着いたが、そこはただのバス駐車場というだけで、例によってバス時刻表も待合室もない。バス停横の溪流の先に、自家用車や観光バス用の広い駐車場があり、隣接する大通り沿いに国立公園管理事務所やモーター、旅館、土産物屋などの商店街が櫛の歯のように続いている。

九千洞バスで降りたのは、自分と普段着の学生風の若者6人である。観光客や登山者の多くは、マイカーや観光バス仕立てで来るのだろう。事前に予約しておいた九千荘にチェックインした。3万ウオンの前払いで、部屋は6畳の広さの床暖房部屋にベッド、テレビ、風呂付きで小綺麗だ。旅装を解いて、情報集めのために入山切符売り場に行く。売り場の横には、道標「入山切符売り場—5.6km—白蓮寺—2.5km—徳裕山(香積峰)」がある他、注意事項として「1993年7月よりキャンプ場以外の山域では炊事、野営を禁止する、1991年11月より夜間(日没から日の出2時間前)の山行を禁止する」と掲示されており、韓国では自由な山行が制約されていることがわかる。この制約には、韓国人の山行での素行がよろしくないことに一因がある。地図販売の案内はないが、「地図を販売してないのか」と尋ねると、6万分の1の地図をどこからか出してきて500ウオンで売ってくれた。

夕食は商店街の食堂で豚カルビを二人分とご飯を二人分(残す)を食べて満腹になる(1.6万ウオン)。その店は、自分一人だからと言っても1人分の注文には応じず、2人以上から提供するという変な店で、サービス精神皆無であった。腹がくちくちくなって満足し、司馬遼太郎の「戦雲の夢」を読みながら早々に眠りに落ちた。

翌26日は、5時過ぎに起床、外はまだ真っ暗闇である。クッキーと牛乳の朝食を摂り、7時近くに九千荘を出た。10分程で入山切符売り場に着く。例によって、2600ウオン(国立公園管理公団と白蓮寺の折半)を払った。寺を訪ねる人からのみ、寺の取り分1300ウオンを山門で徴収すればよいと思うのだが、不可解である。登山口である入山切符売り場入り口から白蓮寺までの5.6kmの間は、幅3m程の九千洞溪流沿いの舗装された参道が極めて穏やかに登っていく。登坂の気分はないものの、溪流兩岸の紅葉の美しさが楽しめる。黄色から深紅の色まで、その諧調が素晴らしい。

「わが肩に 触れて落ちゆく もみじ葉の 何を語るか 徳裕の山」——

溪流沿いの紅葉がひらりひらりと密やかな葉音をたてて落ちていく、語るがごとくに——



この溪流については、「徳裕山の東北方向から九千洞に至る約30kmを流れ、渓谷、奇巖怪石、大小の瀑布、幾多の瀬と淵などで飾られており、各所の佳景33を集めて九千洞33景(注2)と称されている云々」というのが観光案内などの説明要旨である。

入山切符売り場から 1.5km 辺りのインウォル潭(淵)を過ぎ、獅子潭に至る。この辺りの溪流は、これまで見た韓国の溪流のなかで、今の渇水期でも相応の水量があり、淵らしい趣がある。しかし、その後も琵琶潭、九月潭、琴浦潭などの他に九千瀑布を近くに見て通過するのだが、日本の溪流や滝と比べて、その規模や魅力に劣り、これを佳景として美称をつけるのは、誇張が過ぎるのではないかと思われた。九千瀑布から 15 分程で、8 時 35 分に白蓮寺(注 3)の南大門に着く。その頃から急に背後から日が強く差し始め、紅葉の鮮やかさも一段と美しくなった。さらに 10 分程で大雄殿に着く。境内のどこからか読経が流れてくる。聞き入ると、読経は録音テープのようだ。寺は傾斜地にあつて、大雄殿の右肩より登っていく。道標「香積峰 2.5m」がある。ここまでの舗装された参道の道とは全く趣が異なり、枕木や石が敷かれた急な山道になる。木段が多くなり登坂の面白みに欠ける。9 時 50 分に道標「右 1.5km 白蓮寺、左 1.0km 香積峰、海拔 1350m」に至る。ここから稜線歩きになる。1km の距離の間に 264m を登高する訳だ。稜線の植生は熊笹が多くなり、灌木になった。風をもらに受け出した。稜線の要所に「救助隊 119 063-119」の棒杭がある。頂上直下 200m 程は花は咲いてないが高山植物帯のようだ。北からの風が冷たい。10 時 45 分に徳裕山(香積峰)頂上に着いた。



頂上は長径 40m 程の木柵で囲まれた楕円形の平坦地で、樹木はなく見晴らしが利く。天気が良く、四方の山嶺をかなり鮮明に眺望できる。地図によれば、南東方向に伽耶山、南西方向に内蔵山、北西方向に鷄龍山が望見できるはずなのだが、山容の知識もないので同定できなかった。ケルンのような三角錐の石積み(高さ 2~3m 程)が 3 箇所にある。徳裕山の北麓はスキーリゾートになっており、頂上より北方向 600m 先にスキーのゴンドラ駅が見える。そのゴンドラに乗れば、20 分程歩いて頂上に簡単に来れるので、この日も多くの人々が来ていた。



登山姿の者は数人に過ぎない。登ってきた山道に白いものを見なかったが、頂上の北側斜面の枯れ草は雪ではないが白いものを被っていた。手早くクッキーと牛乳で昼食を済ませ、頂上に 20 分程居て、11 時 5 分に登りと同じコースを下山した。12 時半頃に白蓮寺に到着し、九千洞バス停午後 3 時発のバスに乗車、大邱で乗り継いで、ソウルには夜 8 時 40 分に着いた。

今回の山行は、登山道の長さより白蓮寺までの舗装された参道部分が長く、登山をしたという気分としては物足りなかった。さらに一泊することが許されるならば、国立公園の北寄りにある徳裕山から南西に続く主稜線を縦走し、国立公園南端の南徳裕山((標高 1507m)に至る約 28km のコース(途中の待避所に一泊)を採ることもできるのだが、諸事情から望むべくもなかった。

(注1)徳裕山国立公園 入山切符販売所の案内板に拠れば「徳裕山国立公園は、徳裕山(香積峰、標高 1614m)を主峰に 1300m 級の稜線が南西方向に約 30km 続いている。行政区画としては、全羅北道の茂朱郡と長水郡、慶尚南道の居昌郡と咸陽郡の 2 道 4 郡にわたっており、面積 219 平方キロである。1975 年に国立公園に指定された。羅濟通門から白蓮寺までの約 20km に達する区間は、奇巖絶壁と瀑布が連なる九千洞溪谷には、昔先人が名前をつけた九千洞 33 景がある。云々」と説明。

(注2)九千洞 33 景 第 1 景は茂朱郡にある「羅濟通関」で、高さ 3m、長さ 10m の岩壁を穿った小さな隧道である。羅濟通関は新羅と百濟の国境に掘られたもので、東の新羅と西の百濟との交流の関門だった。第 32 は白蓮寺、第 33 は香積峰である。これら第 1、32、33 を除く 30 景は、全て潭、瀑布、奇巖などである。

(注3)白蓮寺 徳裕山山頂から東側へ 2.5km 程の麓にある。新羅興徳王 5 年(830 年)無染国師が創建した説がある。李氏朝鮮末まで幾たびか修造し、朝鮮戦争で灰燼に帰したが、1960 年代に寺址の上に大雄殿などが復元された。